

見えないものと向き合う



今まで目を背けてきた課題。それは、利用学生、支援学生、運営スタッフが抱えている言えずにいた悩みだった。これらを解決するために皆で課題と向き合い、活動を考え、積み重ねてきたことを伝えたい。

練習会

基礎編・・・テイクの基本を身につけたり、支援学生の悩みや不安を聞いたりする。
4月・・・派遣前のテイク術伝授
5月・・・支援学生の悩みに合わせた練習

応用編・・・実際の講義を想定した練習をしてテイク技術の向上を図り、利用学生の困難について参加者全員で考える。
6月・・・先生と学生のやりとりのある講義
7月・・・ディスカッション

合宿

ディスカッション
～きこえない体験～

・ディスカッション時の情報保障の限界を知る。

・必要なテイクの方法を一緒に考える。

利用学生の悩みに対する検討

・利用学生の悩みを受けて支援学生の悩みまで、話し合うことができた。

学生時代に知っておきたい法制度

～若林亮氏による公開講座～

手話学び会

利用学生と支援学生のコミュニケーションを増やすため

テイクの中で使える手話!

- ・1回目は・・・合宿での利用学生3人によるおもしろい劇を通して、楽しく覚えられた。
- ・2回目以降も・・・お互いが楽しく覚えられ企画を考えていく。

↓
共に悩み共に作り上げる
今までを越えるテイク

PR活動

例年よりも、コースの特色に合わせてPRを行った。

顔合わせ会

今年は30人程が参加し、ゲームを通して盛り上がった。

芋煮会

今年は手話学び会の企画を入れて、交流を深める。



利用学生

- ・テイクをしてもらえてありがたいけど、悩みはある。
- ・申し訳なくて言えない。
- ・関係が深まっていないのに、本音は言えない。

運営スタッフ

- ・昨年度は練習会参加者0だった日もあり、イベントや練習会に人が参加しない。
- ・そもそもPRに欠けていた。

支援学生

- ・利用学生とのかかわり方が分からない。(手話できないし・・・)(かかわる機会が少ないし・・・)
- ・テイクをちゃんとできているか不安。(技術面)
- ・ペアテイクとのかかわりが少ない。